

『息ができない』という叫び

司祭 アシジのフランシス 西原 廉太

今回、久しぶりに『ウルリム』に書かせていただくことを嬉しく思う。かつて、2001年から2003年まで連載を持たせていただいた。米国・ニューヨークでの2001年9・11事件直後であったこともあり、当時の拙論タイトルを眺めると、イスラーム社会との分断をテーマにした論考が多い。

それから約20年近くを経たが、トランプ政権の登場と共に、米国社会の分断状況はより深刻な事態へと至っている。さらに、新型コロナウイルス感染症蔓延下での、ジョージ・フロイドの惨殺は、ついに民衆の怒りの全世界的爆発をもたらした。

かつて、南部アフリカ聖公会大主教、デズモンド・ツツらと共に、アパルトヘイト撤廃運動に献身し、1990年、送りつけられた雑誌に隠し挟まれていた手紙爆弾によって両手と片方の眼を失ったマイケル・ラプスレー司祭はこう語る。

「ミネアポリスの警察官は、ジョージ・フロイドの首を、8分46秒の間、彼が死ぬまで踏み続けた。ジョージ・フロイドは殺害された時に、『息ができない』と叫んだ。彼のこの叫びとは、"Black Lives Matter"とただハッシュタグが付されるべきものではなく、あらゆる場所において、抑圧されている人々の、とりわけ、多様な肌の色を持つ人々や先住民の人々の、女性の、LGBTIQの人々の、障がいを持つ人々の、<いのち>と<尊厳>、<正義>のための、叫びと要求なのだ。私たちはみな、創造主であり、贖い主であり、いのちの

与え主である神の姿に似せられて造られている。創世記

第1章27節にはこうある。『神はご自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。

男と女に創造された』。創世記は、私たちがみな、神の子であることを教えている。私たちの価値とは、私たちの共通の人間性に由来しているのであって、鼻の形や肌の色などの付随的な特徴からではない。別の言い方をすれば、私たちすべての者の中に、神に由来するものがあるということなのだ。人が、ありのままに持つ、そのアイデンティティを理由に、その人を蹂躪することは、それはすなわち、神への蹂躪となるのだ。白人が黒人を蹂躪している時に、私はそこに確かに神ご自身が泣いておられるのを見るのだ」

ラプスレー司祭の告発は、もちろん米国の白人社会にのみ向けられているのではない。私たちすべての在り様を問うているのである。私たちのこの日本の社会において、在日韓国朝鮮人の人々は、100年もの間、ずっと「息ができない」と叫んできたのだ。日本社会は今もなお、彼らの首を踏み続けている。聖公会生野センターは、日本人が在日の人々の首を踏んでいることを自覚させ、誰しもが等しく、自由に息をし、生きることのできる社会・世界を構想し、実現するために、今も献身的に活動してくれている。

未だ、聖公会生野センターの使命は達成されてはいない。在日韓国朝鮮人と日本人の協働を推進し、真の共生社会を、<いま・ここ>に現在化するために、私たちも、聖公会生野センターと共に歩みたい。

(にしはら・れんた 中部教区主教被選者)



文在寅就任3周年特別演説から想うこと

執事 アンデレ 松山 健作

新型コロナウイルスは世界を恐怖へと陥れています。教会の牧師補・幼稚園の園長として、その対応に日々翻弄される時を過ごしています。同時により恐れるのは、日本という国の政策、民の思考停止、全体主義の高潮であることです。

政策・支援の迅速さを欠き、またその裏での検察庁法定年改正を強行しようとした政府の姿勢は民を尊ばない姿勢、欺きと裏切りと映りました。日本はここまですべて後退していることを示すことだと思います。

その中で私は、韓国の文在寅大統領の2020年5月10日に行われた就任3周年特別演説を聞く機会を得ました。そこで、一人の人間として国のリーダーの資質を考えるきっかけを与えられました。文大統領の挨拶はいつも「尊敬する国民のみなさま」という呼びかけで始まります。

これは、お決まりのようですが、キリスト者である私たちが祈る時に「天の神さま・・・」と呼びかけるように大切な言葉です。リーダーの視点は常に民に向いている。民主主義の根本を示しています。信仰者の姿勢で言えば、常に神の方向に向いて生きたいという畏敬の念を表す言葉です。

文政権は、民のろうそくデモによって3年前に誕生しました。腐敗した朴槿恵政権を弾劾し、樹立した政権です。朝鮮半島における南北間の対話再開においても大きな成果をあげ、昨今は新型コロナウイルスの対応において先進国であると世界で認められています。

日本ではあまり知られていませんが、これこそが民の命を真摯に尊ぶ姿勢を施策として体現したからこそです。文大統領は、演説の中で「公正と正義、革新と包容、平和と繁栄の道を歩もう」と語ります。しかし、この3年は決して楽な道のりではなく、困難な中

で常に民の支援と声援に勇気づけられたことへの感謝を伝えます。そして重い責任感を残りの2年間で果たすという約束をします。

2020年の困難は世界を取り巻く新型コロナウイルスへの対応です。これはどの国家においても危機であります。この状況下で文大統領は、民と共に知恵を振り絞り「危機をチャンス」に変えて、行動することを誓います。それは、そもそも就任当時から続いており、このパンデミックの状況下で力を発揮したのでしょう。迅速に社会的救済を行い、感染者の早期発見・早期治療によって、犠牲者を最小限に抑えています。

日本の報道では、この就任演説が「K (KOREA) 防疫は世界の標準」という宣言後、ナイトクラブで集団感染が起これ疑いの目をもって報道されました。しかし、私はこの演説の本質はこの新型コロナウイルスの対応だけではないと強調したいと思います。逆に、日本の報道では、民を尊ぶリーダーの資質が示されていることが欠落しています。真の民主主義によって建てられたリーダーとは、民を尊び、民から愛される存在です。それを文大統領の演説は示しています。

さて日本の状況はいかがでしょうか。紙幅上たくさんのお伝えできませんが、文大統領の就任演説は、日本語訳がついてYouTubeで配信されています(文在寅大統領就任3周年特別演説・<https://www.youtube.com/watch?v=bTDFBI3k65M>)。ぜひ、ご自身の目と耳と心でご確認ください。ご覧になれば「隣の芝生は青く見える」のではなく、実際に青くなってきていることを実感できるでしょう。と同時に私たちの芝生は、もう根が腐っていることも感じるでしょう。

(まつやま・けんさく 聖光教会牧師補、聖光幼稚園園長)

「コロナウイルス危機」と在日外国人

佐藤 信行

新型コロナウイルス感染の世界的拡大は、これまで社会的に周縁化され、経済的にも医療アクセスにおいても脆弱な位置に置かれているマイノリティを直撃している。とくに移民や民族的マイノリティは、「感染リスク」と結びつけられ、排外主義的な言葉を浴びせられている。

日本では、経済悪化のなか技能実習生や派遣で働く移住労働者は解雇や退職を迫られる、アルバイトでかろうじて学費と生活費を得ていた留学生は職を失い、しかも母国に帰ろうとも、出国できない。また日本での永住資格を持っていても、海外滞在中に日本への再入国期限が切れると、永住資格が取り消されてしまう……。このような悲鳴が、毎日のように全国各地のNGO・労組・教会に届いている。これらの事例は、在日外国人が人間として持つべき権利が剥奪されていることを如実に示している。

*

政府は4月16日、一人あたり10万円の特別給付金を出すことを決定した。その対象者は「基準日(4月27日)において、住民基本台帳に記録されている者」とされている。市区町村で住民基本台帳に記載される外国人は、在日コリアンなど「特別永住者」と、3カ月を超える在留期間をもつ「中長期在留者」である。その現在数は2,933,137人であり、特別給付金の対象となる。

しかし、その対象から排除される外国人、すなわち住民登録がされていない外国人が、少なくとも71万人以上となる。①在留資格が「短期滞在」「特定活動」「公用」などとなっている外国人と、②「超過滞在の外国人」である。

①の「住民登録がない外国人」(約63万人)の中には、年度末の3月に大学を卒業した留学生や、就業先との契約が終了した技能実習生も多く、彼ら彼女らは出国準備期間の「短期滞在」となったものの、当面は帰国できない。また「特定活動」の中には、難民申請者も入っており、彼ら彼女らは2カ月あるいは3カ月

の在留期間が認められているが、住民基本台帳には登録されていない。

そのため「移住者と連帯する全国ネットワーク(移住連)」は、これら住民基本台帳に記録されていない外国人に対しても、自治体が「居住の実態を窓口で確認する」ことによって特別給付金を出すよう政府に要請し、その一部は実現した。

②の「超過滞在の外国人」(約8万人)の多くは、観光ビザなどの「短期滞在」や「技能実習」「留学」などから「超過滞在」となった外国人である。たとえばベトナム人技能実習生の場合、本国において日本語講習料・仲介料・渡航費で平均100万円の借金をして、日本で働き始めたものの、あまりにも過酷な労働と低賃金に耐えかねて失踪した労働者である。留学生の場合も、日本の大学で学ぼうという強い意思をもって渡日し日本語学校に学び始めたものの、深夜労働のアルバイト「週28時間以内」では、借金も学費も生活費も充たないが故に退学せざるをえなくなった学生たちである。そして超過滞在となった彼ら彼女らのほとんどは、同胞間のネットワークで運良く見つけた職場で働いている。しかし、今回のコロナ感染拡大の中で、文字通り「息を潜めて」生活している。彼ら彼女らには住民登録がない、また住民登録がない故に、健康保険証を持っていないからである。

このような事態こそが、日本社会にとっての「コロナ危機」なのではないのか。

*

5月8日、NGO・労組・教会関係機関・研究者・弁護士・行政書士などで構成する移住連は、「新型コロナウイルス 移民・難民緊急支援基金」を立ち上げた。それは「緊急事態のなか、移民・難民の生活困窮者のくらしを支え、<草の根の連帯>によって排除や放置、分断を乗り越える力を示したい」と決意したからである。目標を「2000万円/666人への支援」とした基金は、わずか2週間で628万円の募金が寄せられ、まず超過滞在者など193人へ、一人3万円の緊急支援を始めた。

(さとう・のぶゆき 在日大韓基督教会 在日韓国人問題研究所『RAIK通信』編集長)

のりばんクリスマス会



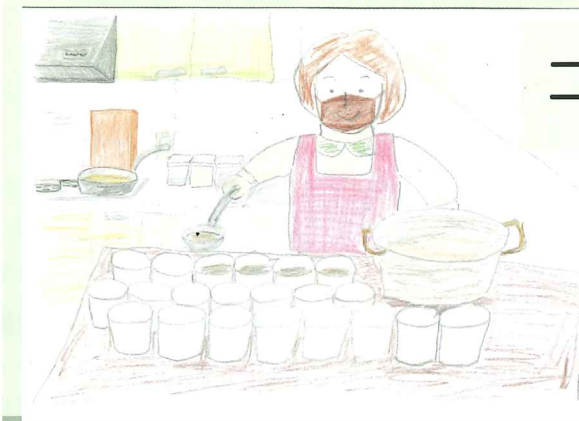
アコーディオン奏者/歌手の山口百絵さんに来て頂きました。懐かしい韓国の民謡、日本の演歌で楽しみ、最後はサンタさんの登場です。

クリンもだん美術展



障がい者の美術活動の1年間の作品を紹介しています。2回目のコリアタウンでの開催。1年間の作品を紹介しています。

コロナでも生活支援を!



新型コロナウイルス。聖公会生野センターも利用をストップせざるを得ませんでした。センターの大切な活動は「食のサポート」。年間を通して毎日昼食は手作りです。



急遽4/21から5/6まで2週間以上、毎日20食~30食のお弁当を作って食のサポートを続けました。初めてのことで手探りでしたが、おかげで利用される方々からは好評で毎日お顔を見ることができました。

のりばん

プール学院高校3年生ボランティア体験



すっかり年中行事になったボランティア体験。3人ずつ3組できます。最近ではK-POPの流行もあり、すっかり韓国料理はなじみになりました。そして最終回には「芸」の披露です。今年はギターで韓国民謡、ヘンデルのメサイアからハレルヤ、そして節分の日には色紙で鬼を作りました。大学でもこの経験が共に生きるための肥やしになることを祈っています。



しゃくすい がん 釈翠岩の墓

生野の歴史を訪ねて

生野区役所のホームページより

約300年前、旧中川村に生まれ地域の福祉増進にと私財を投じた住吉屋太郎右衛門の墓です。

住吉屋太郎右衛門は、後に剃髪して翠岩と号しましたが生来慈善心に富み、公共心が強く、近郷の橋11ヶ所の架設や道路修理、社寺への寄金、村民への施米資金の寄付など、その功績は数えきれません。

また、当時寄付された土地は現在も中川町財産区

として管理運営されており、福祉や地域振興に恩恵を与えています。墓所の入口には、翠岩さんが架けた石橋の一部が記念石として置かれ、遺徳が偲べれます。

生野区には古代から様々な歴史があります。今回は聖公会生野センターから歩いて5分の近さです。

住所：生野区中川東2丁目7番

2019年度会費納入・献金納入の方々
(2019年4月1日～2020年3月31日 順不同、敬称略)

昨年も多くの方々からご支援頂きました。教会でまとめてご送金くださったところもありますのですべてのご支援くださった方が載っているとは限りませんがご了承ください。

今年もよろしくお祈りします。

(複数回ご献金くださった方々も記載は一度にさせて頂きました。)

【正会費】

林香代子/長野泰信/原田光雄/井田泉/三浦恒久/宮嶋眞/熊取谷志郎/大西修/石脇慶總/松陰女子学院/日本聖公会九州教区/伊藤美佐子/早川育子/こひつじ乳児保育園/黒田裕/冷麵館/矢萩新一/奥晋一郎/文京洙/小山俊雄/呉光現/高泰洙/出口弘/大阪聖パウロ教会/城下彰/前田良彦/青柳美智子/林真澄/武藤謙一/小出裕司/山本眞/奥田哲夫/竹林徑一/堀江裕一/鈴木憲二/宗像千代子/奥村貴充/木村幸夫/ウイルソンウォーレン/佐藤耕一/社会福祉法人博愛社/加納加代子/猿橋靖/磯晴久/春名英夫/井出吉志子/千松清美/河野芳孝/齊藤壹・祥子/松原恵美子

【後援会費】

井口諭/岡田安朝/小山紀巳子/上田貴亮/目崎宗世/保坂久代/尾崎茂雄/古谷美子/小林幸子/佐藤千鶴子/古澤陽代/秋山公子/榎本房代/近澤淑子/松居勲/武藤六治/林正樹/浮田真理/神谷尚孝/広谷和文/中尾由紀子/若村正博/越山健蔵/目崎宗世/寺本眞奈/関ノリ子/宮脇一郎/佐々木晶子/加藤博道/浜名敏白/高道千恵子/加納実/当舎あずさ/泉迪子/寺本眞名/内田照子/横内洋子/興津健蔵/興津由紀子/興津由紀子/川村輝夫/川村昌子/上村玉栄/奥和子/伊地知敏照/橋本祥子/今西時子/野田晴代/畑野めぐみ/福田順子/森中央/三宅亨子/藤田法子/福永芽久美/本多修/上田浩子/林芳子/石井英隆/大野寿美/山口善彦/富谷晋/中尾由紀子/国津進・恵美子/野上千春早川文字/東敏勝/佐々木晶子/尼子ユリコ/鈴木靖夫/栗井茂明/高橋新/桜井揚子/坪田敬子/内宮隆夫/川村輝夫/香西一恵/本多修/長野加代子/田中廉/三宅亨子/辻節子/樋口敏雄/大野吾子/相楽弘子/今西時子/今村祥子/前原潔/奥和子/高道千恵子畑野光太郎/野田晴代/堺聖テモテ教会(一括)/アジア国際夏期学校/宋悟/社会福祉法人神愛会田辺聖公会愛の園シオン会/大西憲子/松本潤子/服部喜代司/服部慶子/高見久江/辻潤/河野紀子/藤永壯/高田日出夫・恭子/山田護/山田郁子/中村勇雄

【献金】

伊藤美佐子/京都教区京都伝道区信徒伝道協議会/奥晋一郎/日本聖公会北関東教区/大阪京都特別協働教区合同教役者会/ウイリアムス神学院/小金井聖公会食事会/弘益大学/立教女学院/小林幸子/関東3教区生野委員会/日本聖公会北関東教区/大阪教区教区礼拝信施金/岩城健太/聖アンデレ教会/田中廉/田中幸/林香代子/大阪教区宣教局社会委員会/京都教区宣教局社会部/山本眞/大阪教区連合男子会/二見伸吾/宗像千代子/川口基督教会/大阪京都特別協働教役者会/申英子/大阪教区教区礼拝献金/東豊中ミカエル教会/石橋聖トマス教会/田中廉/磯晴久/大阪教区連合男子会/聖バルナバ病院/堺聖テモテ教会/大野寿美

【クリスマス献金】

西宮聖ペテロ教会/西宮聖ペテロ教会婦人会/東京聖テモテ婦人会/尼崎聖ステパノ教会/大西修/伊藤美佐子/目崎宗世/寺本眞奈/良善幼稚園/石垣進/古谷美子/佐藤千鶴子/草ヶ江幼稚園園児一同/川越キリスト教会/聖三一幼稚園/稲葉麻里子/城下彰/市川聖マリヤ教会/宇野徹/奥晋一郎/岸和田復活教会/聖光教会/京都復活教会/前田良彦・恂子/プール学院中学校高等学校/三条聖母マリヤ教会/聖パウロ教会/富山聖マリヤ教会/植松誠/井上るみ子/宗像千代子/原楨寿子/鈴木憲二/こひつじ乳児保育園/岩城聰/岩田二三代/尼崎聖ステパノ教会手芸カフェ/福永芽久美/聖ルシヤ教会/田中廉/大阪教区婦人会/森中央/大阪聖アンデレ教会婦人会/富田林聖アグネス教会/尼崎聖ステパノ教会/影山章子/恵我ノ荘聖マタイ教会/千松清美/聖ルカ教会/芦屋聖マルコ教会/高見久江/宇野徹/大阪聖愛教会

【分担金】

大阪教区/京都教区/聖ガブリエル教会

2019年度会計報告					
収入	受託事業	10,859,220	支出	事業費支出	4,582,666
	利用者負担金	3,099,385		事務費支出	3,717,973
	会費収入	930,000		人件費支出	13,723,670
	分担金	1,230,000		積立金	180,000
	献金	3,538,426			
	民間助成金	670,000			
	雑収入	71,255			
	合計	20,398,286		合計	22,204,309
					収支差額
【2020年度会計報告】					
<p>昨年は非常に厳しい会計状況でした。会費・寄付金が減少しています。2020年度は事業展開を計画していますが、より一層の皆様のご支援を引き続きお願いいたします。</p>					



大韓聖公会の教会と障がい者の作業所で作った木製の十字架

特定非営利活動法人聖公会生野センターの会員になってください

主のみ名を賛美します。

聖公会生野センターは1992年の発足以来多くの方々のご支援／ご協力の下に活動を行ってきました。活動の拡がりと共に2005年に法人格を取得し、特定非営利活動法人聖公会生野センターとなりましたがその働きは変わることなく会費・献金などの支援によりなされています。会員の種別は以下のようになっております。

これまで正会員・後援会員として活動にご支援くださった方々に再度感謝を申し上げますと共に、一人でも多くの方に会員として聖公会生野センターの活動にご参加をお願い申し上げます。

- ▼正会員：一口 10,000円（何口でも結構です）
※法人の事業の決定に参加できます
- ▼後援会員A：一口 3,000円（何口でも結構です）
- ▼後援会員B：一口 5,000円（何口でも結構です）
- ▼維持会員：A 30,000円／B 50,000円／C 100,000円

※新規に会員になられる方はお名前、ご住所、所属等をご記入の上、郵便・FAX・emailでお送りください。

- ・ email : nskkikuno@gmail.com
- ・ FAX : FAX06-6224-7869
- ・ 郵 送 : 〒544-0002 大阪市生野区小路3-11-19

お名前	所 属 ・ 教 会 ()
ご住所 〒	
正会員・後援会員（A・B）・維持会員（A・B・C）	

送金方法

【ゆうちょ銀行（郵便振替）】

口座番号 00910-1-321780／ 口座名 特定非営利活動法人聖公会生野センター

※郵貯銀行以外からご送金の場合

○九九（ゼロキュウキュウ）店（099） 当座 0321780

口座名 特定非営利活動法人聖公会生野センター

自由献金（ご寄付）は随時受け付けております

発行所：聖公会生野センター

〒544-0002

大阪市生野区小路3丁目11番19号

発行人：磯 晴久

編集人：呉 光現

TEL 06-6754-4356

FAX 06-6224-7856

E-Mail nskkikuno@gmail.com

<http://www.nskk.org/province/ikuno>